

# 窓辺のプラットフォーム



## ■世代をつなぐ ⇒ 他者を受け入れる事

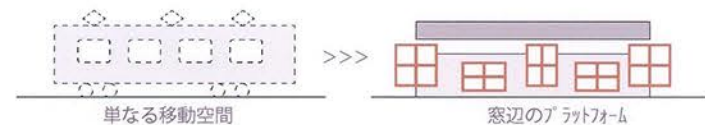
まず、家族というのは他人を受け入れる事から始まります。家族の中で、血縁という事でいえば、親、子、孫、という縦の繋がりのみであり、親子という関係が成立する前、つまり夫婦は他人同士の関係です。他人同士から子が生まれ、初めて家族になります。また、二世帯と言う事になれば、それは、他人の家族と関係を持つ事になります。他人を認める、他人を受け入れる、『他者を受け入れる』という事が家族の始まりで、世代をつなぐという事の本質ではないでしょうか。

## ■世代をつなぐ 社会に開かれた『窓辺』

現代社会においては、この家族という関係は少し奇妙なものに変化してきているのではないのでしょうか。同じ家の中にいながらも、まるで他人のような関係になりつつあります。まるで、電車の中にいる他人同士のよう、同じ空間にいながら、携帯電話という小さな「窓」を覗き見て、全く別の集団とつながっているのです。つまり、現代社会においては、家族という限定的な関係以上に、それぞれ個人個人が、社会全体と世代を超えたつながりを持っているのではないのでしょうか。ここで提案するのは、単なる窓という機能を越えた、リアルな世界で様々な世代をつなぐ事のできる社会に開かれた「窓辺」です。この「窓辺」は、人、自然、環境などのあらゆる他者を受け入れると同時に、社会へ発信できるインタラクティブな媒体となります。そして、家族という限定的な関係を越えて、様々な人間と世代を超えたつながりを可能にします。この家は、家族間のつながりだけでなく、社会全体の他者とつながることのできる新たなメディアとなるでしょう。

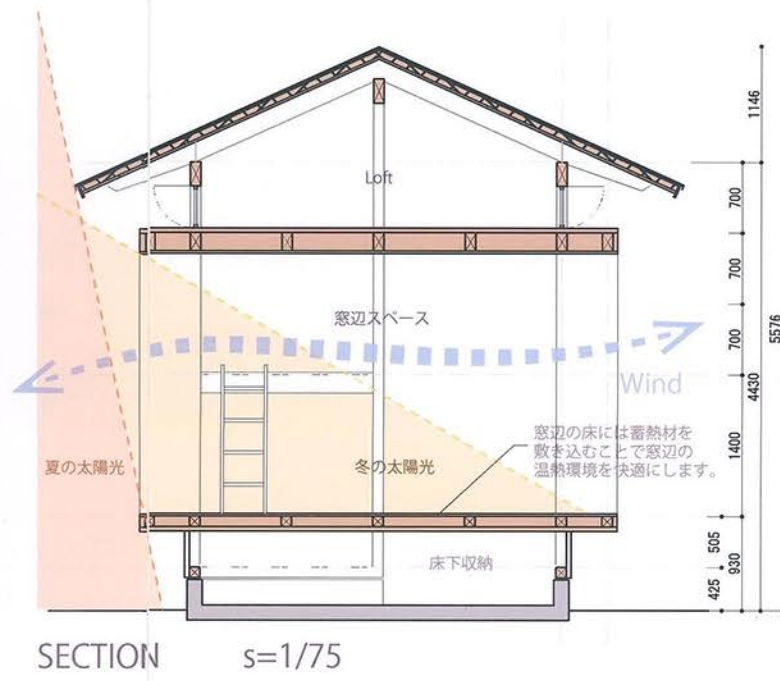
## ■まちの取り残された公共空間

敷地は、とある東京の住宅街。かつて、電車が地上を走っていたが、現在は地下化され、まちの中で取り残された細長い公共空間として存在している場所です。このまちの残余の空間に細長い窓辺の建築を考えます。移動するだけの電車は世代を超えて、活きた窓辺のプラットフォームに生まれ変わります。



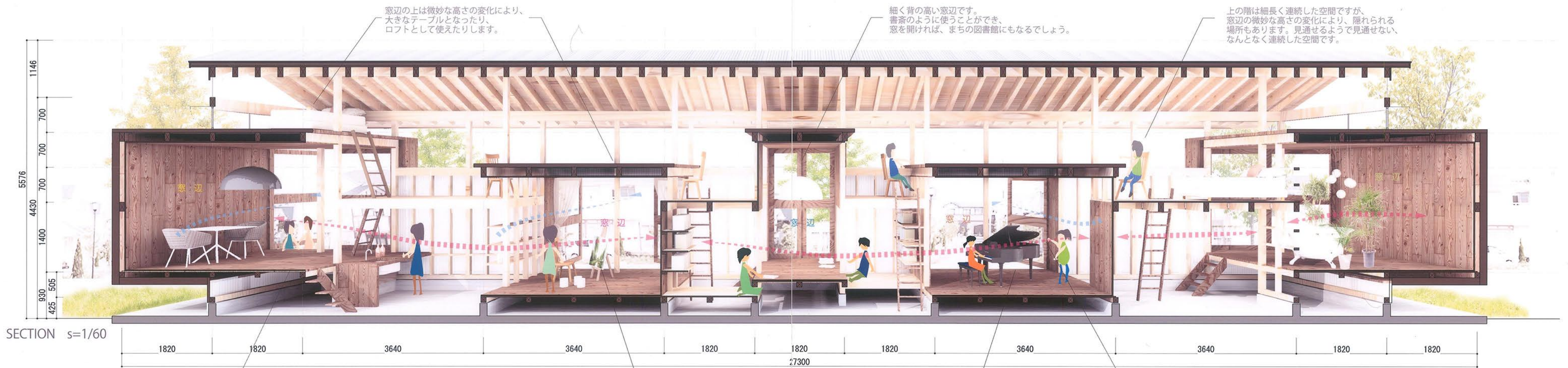
## ■環境を受け入れる窓辺

大きな窓辺と深い庇により、夏は強い日差しを遮り、窓を開く事で、涼しい風を受け入れます。冬は、窓を閉め、冷たい風を遮り、暖かい日差しを受け入れます。この大きな窓辺はシンプルでありながら、環境制御装置にもなります。



## ■大きな窓辺と小さな隙間

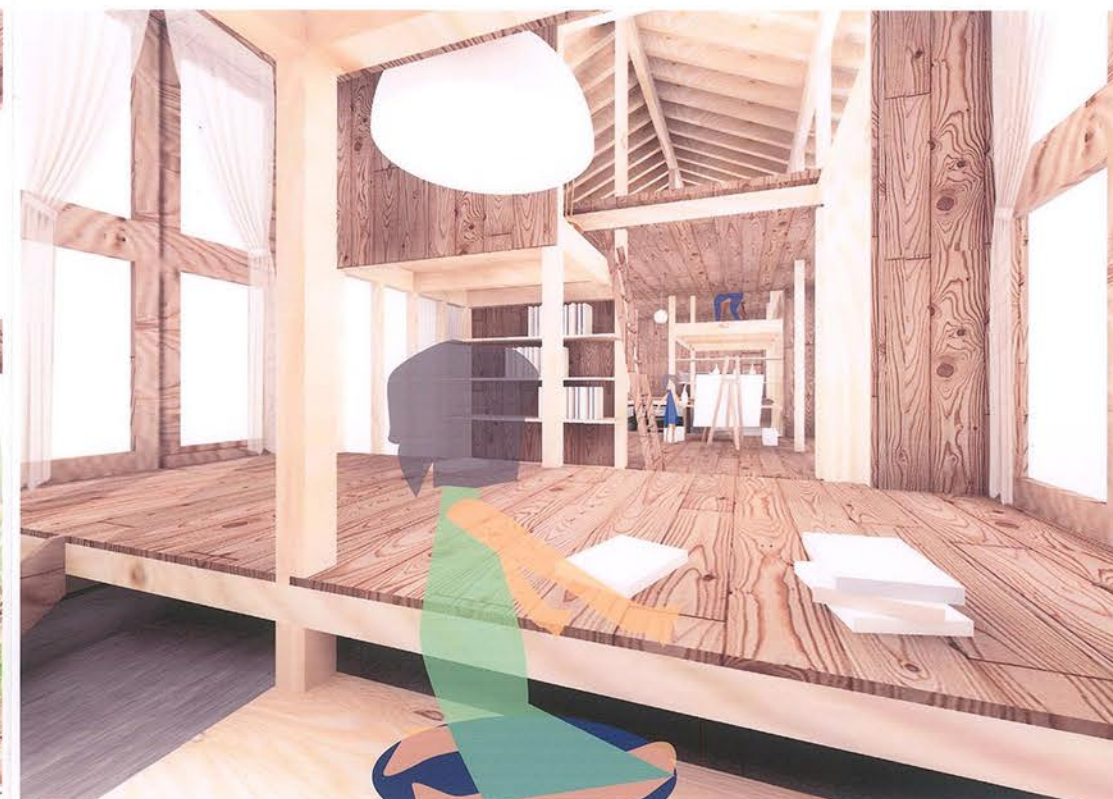
平面は大きな窓辺が横一列に小さな隙間をつくりながら並んだ構成になっています。隙間の空間は家族個人個人が最低限生活できるスペースとなっており、「窓辺」はそれらのスペースをつなぐ役割をもち、また他者を受け入れる場所にもなっています。



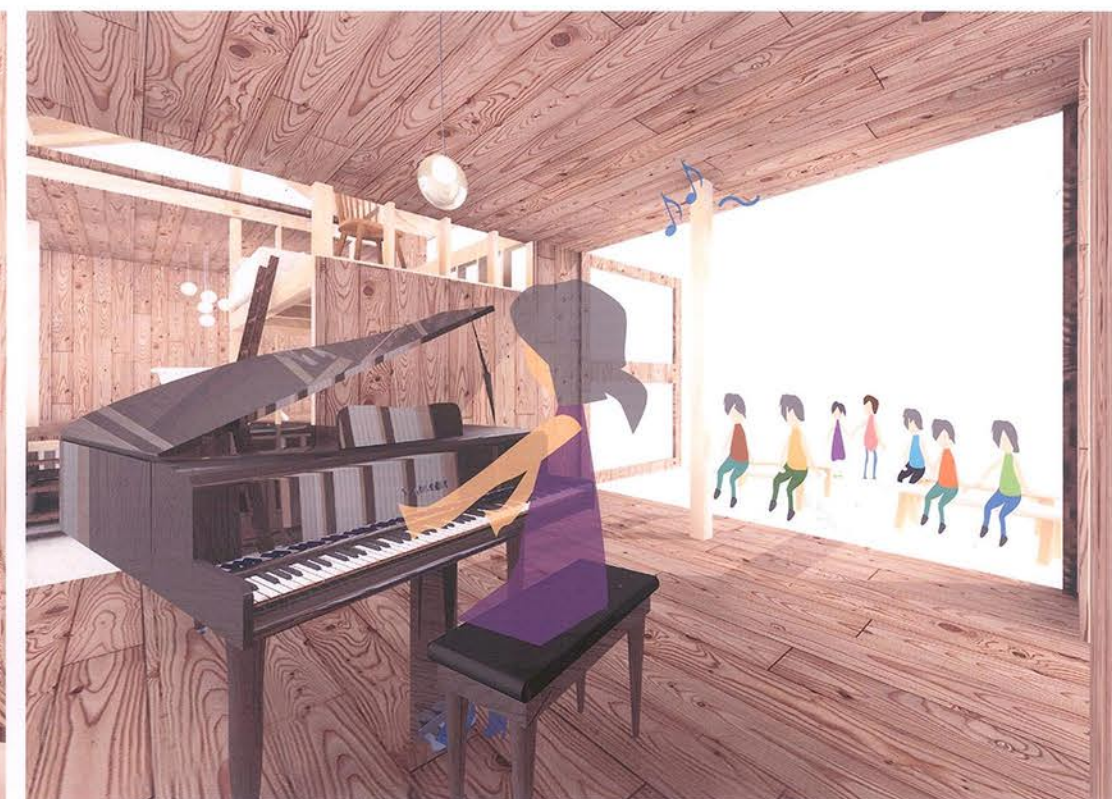
窓を開ければそこはまちのダイニングテーブルとなります。他者を受け入れる「窓辺」になります。



窓辺は自分の趣味の場所でもあり、道行く子どもたちの教育の場所にもなります。



窓辺と窓辺の空間が緩やかに連続し互いの居場所が見え隠れします。



窓辺はときに、発表の場所にもなります。社会へ発信できる開かれた場所になります。